

戦国時代 古河公方の御所

～鎌倉から古河へ～

なぜ、鎌倉公方・足利成氏は古河に来たのか？



関東地方の中世は河川水系が現在と全く異なっており、2つの独立した水系により成り立っていました。

1つは、旧利根川・旧渡良瀬川を中心とし、現在の東京湾へと注ぎます。もう1つは、古河の大山沼を西端とする現在の利根川下流と鬼怒川を中心として、霞ヶ浦・北浦・印旛沼をあわせた広大な内海に注ぎ、鹿島灘にもつながっていました。

古河はこれら2大水系の接点に位置しました。近代以前は水上交通が沢山の物資を迅速に運ぶことのできる現在の高速道路のような役割を担っていたので、関東の二大水系を掌握できる古河の地は、すなわち関東全体を掌握しやすい場所だったのです。

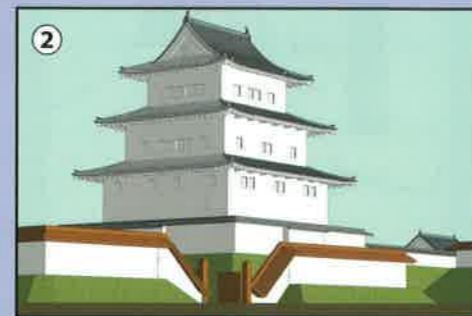
従来、足利成氏は、今川範忠に攻められて鎌倉を失なったため、古河に逃げてきたという見方が主流でしたが、最近では自ら積極的に古河を新たな拠点として選びとったという見方が増えています。

参考文献：市村高男「内海論から見た中世の東国」（市村高男監修『中世東国の内海世界』高志書院、2007年）

CGで甦る江戸時代の古河城



①古河リンクス上空から古河城を眺望
古河城は三国橋と新三国橋の間の河川敷にありました。



②三ノ丸より御三階櫓を見上げる
関東平野のドマンナカにそびえる22mもの高さを誇る御三階櫓は古河藩の象徴でした。



③東帯曲輪 涼櫓
戦闘的な他の櫓に比べ文化的な構造の涼櫓は桃林や筑波山を眺望できる古河城の景勝地にありました。



④本丸御殿と本丸表門
日光社参のおり、将軍が宿泊した本丸御殿。茶室や蒸し風呂まで完備されていました。



⑤桜町曲輪 御成門と獅子ヶ崎
将軍をお迎えする御成門には関東の城郭としては珍しい石垣が築かれていました。



⑥頼政曲輪 頼政神社
源三位頼政を祀った神社。厄を払う神社としてたくさんの住民が詣でに来たそうです。

河川敷に消えた名城

古河城

古河城本丸御三階櫓(明治3年)



茨城県古河市の渡良瀬川河川敷には、かつて東西500m、南北1800mに及ぶ、関東最大規模の城郭・古河城がありました。

古河史楽会

古河史楽会(古河の歴史を楽しむ会)とは古河公方など多くの歴史物語を生んだ古都・古河。この古河市と歴史背景が同じ周辺地域(野木町・加須市北川辺地域など)で、歴史をもっと楽しもう!という団体です。

古河史楽会について、詳しくはホームページをご覧ください。

<http://koga-shigakukai.com>

古河城のあゆみ

年代	出来事
鎌倉時代初期	源頼朝の御家人・下河辺行平が館を立てる。
1340頃	高師冬が入城・常陸小田城の北畠親房に対抗。
1386	鎌倉公方・足利氏満が入城（若犬丸の乱）。
1440	野田右馬助と矢部大炊助が籠城（結城合戦）。
1455	鎌倉公方・足利成氏が古河在陣。鎌倉陥落後は本拠を移して、古河公方に（享徳の乱）。最初の御所は古河公方館（古河総合公園）。
1457	足利成氏の御所になる。以後の古河公方は、政氏・高基・晴氏・義氏。
1561	関白・近衛前久、関東管領・上杉憲政が入城。このころ上杉謙信と北条氏康・氏政が古河公方擁立を争い、城を奪いあう。
1590	豊臣秀吉による城の破却令。足利義氏の遺児・氏姫が城を出る。
1590～1633	江戸幕府が始まる。徳川家康の家臣が城主に。小笠原秀政、松平（戸田）康長、小笠原信之・政信、奥平忠昌、永井直勝・尚政。
1617	将軍による日光社参開始。以後、1843年まで続けられ、旅程途中の将軍宿城になる。
1633～1681	大老・土井利勝が城主となる。利勝は本丸に御三階櫓、二の丸に御殿を造営。以後の城主は、利隆・利重・利久・利益。
1681～1762	土井家移封。堀田正俊・正仲、松平（藤井）信之・忠之、松平（大河内）信輝・信祝、本多忠良・忠敬、松平（松井）康福が城主に。
1687	熊沢蕃山が城内に預けられる。
1762～1871	土井家再封。土井利里・利見・利厚・利位・利亨・利則・利与が城主に。
1873	廃城令、翌年には建造物破却。
1910～1925	大規模な渡良瀬川改修事業。城跡も消滅。

江戸幕府が開かれた近世以降も重要拠点に！



江戸時代も、関東の交通・物流と江戸の防衛を担う重要拠点となり、幕閣の中心を担った譜代大名が城主となりました。

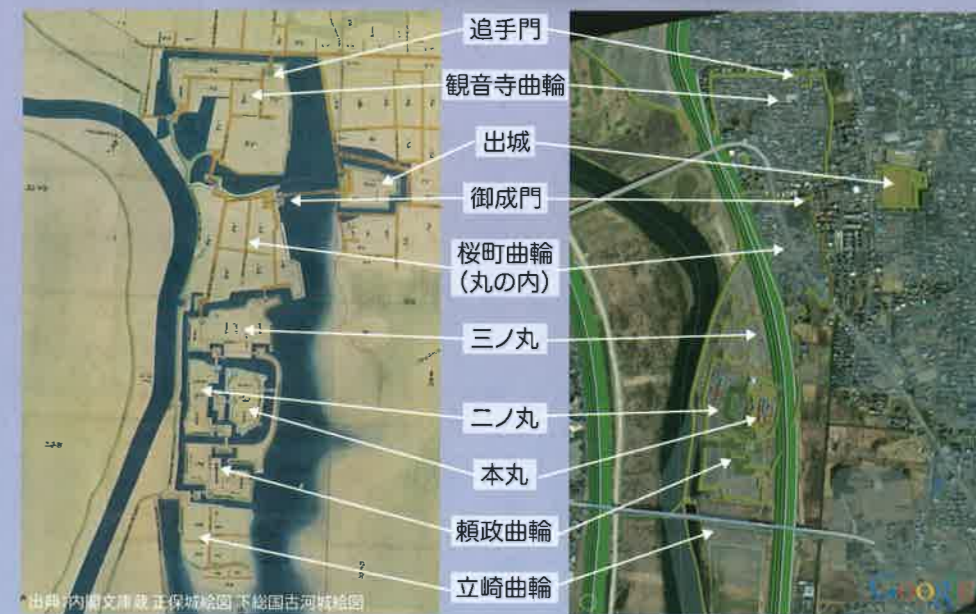
大老は土井利勝・堀田正俊、老中は永井尚政・松平信之・本多忠良・土井利厚・土井利位があげられます。

将軍による日光社参では、岩槻城・宇都宮城と同様に将軍の宿城とされ、城下にも日光道中の主要な宿場のひとつ・古河宿が展開しました。

城の隣には船渡河岸が設けられ、古河近郊だけでなく、北関東の農村と江戸を結ぶ物流の拠点となります。

街道と水運の両方が重なる交通と物流の要衝でした。

失われた城の構造



江戸時代の古河城は絵図が残っており、城の構造について、だいたいのは分かっています。しかし、大規模な河川改修工事により、現在は城の中心部が堤防と河川敷に変わり、もとの城跡の地形が全く分からなくなりました。城の形状を再現するには、絵図だけではなく、正確な地形情報が必要です。

新たな情報源を探索！！



古河史学会では、新たな情報源を根気よく探し続けた結果、一昨年、国土交通省利根川上流河川事務所の図面倉庫で、眠っていた河川改修工事前の測量図（渡良瀬川筋平面図本郷柏戸間縮尺参千分ノ巻）を発見しました。

このような地形情報について、引き続き解析を行った結果、いくつかの疑問が解けてきました。

例えば、三ノ丸は城の中心部に位置するにも関わらず、大きな建物は置かれず、馬場等として利用されていました。本丸から離れた桜町曲輪に重臣の屋敷が設けられていたことを考えると、不自然な土地利用です。しかし、今回得られた地形情報から、三ノ丸だけ周囲より低いことがわかりました。水害に弱く、居住に適さない土地だったのです。

こうして得られた地形情報を利用して、私たちはコンピュータグラフィクスによる城の復元を試みることにしました。

